

Cantabile

2019. March

Vol.14

発行

山形県音楽教育連盟

山形県小中学校教育研究会音楽部会

発行日

平成31年 3月31日



感動！感謝！ 第六十六回東北音研山形・庄内大会

会長 岸 純一

十一月十六日、予想を大きく上回る小中高合わせて二百九十名余りの参加者を迎え、東北音研山形・庄内大会が、松原小、希望ホール、鶴岡中央高を会場に開催されました。

酒田市・遊佐町を中核とした実行委員会の先生方が、少ないスタッフの中、佐藤文雄実行委員長、佐藤桂子事務局長をはじめ、一人二役三役の大車輪による活躍のもと、約三年かけて総力を結集した準備・運営による大会でありました。

大会要項、レセプション、音楽集会、公開授業、分科会での協議と指導助言、記念演奏、白井調査官による全体講評・講演、全てに渡り、充実した内容で、子どもたちも先生方も輝いておりました。真摯に音や音楽に対峙し、試行錯誤し、学び合いながら学習し演奏し鑑賞する姿、それを支える授業者・指導者・指揮者の温かい配慮とまなざしが印象的でありました。そして、音楽の授業や活動の果たす教育的な役割の大きさを、参加者に確かに伝えてくださいました。このように心温かな運営と充実した公開内容で、大会を大成功裏に終了されたことは、今後の大会の企画・運営のモデルとして活かすべきことであると考えます。

そして、実行委員会の先生方に加え、各授業者の所属学校の校長先生はじめ先生方、朝六時に山形を発ち運営の応援に駆け付けてくれた音連幹事の先生方、分科会で懇切丁寧な価値付けと指導いただいた助言者の先生方、参加者の方々の「何とか苦労に報いたい。少しでも手伝えたい。見守りたい。」という心遣いにも感謝申し上げます。

最後に、今後一層、酒田飽海地区、庄内地区の音楽教育が充実されますことを願い、六年後の山形市で開催される東北音研が、さらに大きな感動と感謝を子どもたちや参加者に与える大会になりますことを祈ります。

第66回東北音楽教育研究大会 第24回山形県音楽教育研究大会庄内大会

大会主題

つながり合おう

～音楽学習の楽しさを求めて～

中学校Ⅰ 表現

授業者：安達 智明 先生
(酒田市立第四中学校)

題材名「思いを伝えよう」

= 原稿本文 =

長崎の原爆を背景とした混声三部合唱曲「空は今」(山崎朋子作詞・作曲)を取り上げ、歌詞の内容を手がかりに、音色、強弱、速度の変化等の諸要素をどのように工夫すれば作者の思いを表現できるか追求した。一人一人が感じ取ったことをパートへと広げ、パートごとに分かれて生徒同士が意見交換をしながら思いや意図を伝え合い、最終的に全員で平和を願う詩の世界へと近づいていった。

中学校Ⅱ 鑑賞

授業者：中村 恵子 先生
(酒田市立鳥海八幡中学校)

題材名「曲の特徴を聴き取り、作曲者の思いを探ろう」

= 原稿本文 =

楽曲の背景を手がかりに、知覚・感受した音楽を形作る要素と結びつけながらグループで話し合い、作曲者の意図に迫った。映像やICT機器(タブレット)を適切に使用することにより、生徒がより深く思考したり、感じ取った内容を共有したりすることに効果を上げていた。生徒は音楽的な語彙が豊富で、日頃の積み重ねを伺うことができた。

記念講演

「新学習指導要領〈音楽科〉改定のポイント」

文部科学省初等中等教育局教育課程課 白井 学 先生

白井調査官には、本大会の全体講評と、新学習指導要領〈音楽科〉改定のポイントについてご講演をいただいた。
新学習指導要領における音楽科の授業とは
・音楽活動を通して行われること
・児童生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせることができる
・目標に示す資質能力を育成できるようにすること
・そのために、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るよう
にすること

その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見出したりするなど、思考判断し、表現する一連の過程を大切にしたい学習の充実を図ることである。

そもそも、教科の中で音楽科の必要性は何であるかと問われたときにどう答えるのか。その答えは、目標に示してある「生活や社会の中の音や音楽(音楽文化)」と豊かに関わる資質・能力を育成するためである。小中では、児童生徒全員が音楽教育に関わることを得ないが、その先は、自ら関わりを深め、音楽と関わる機会を得ることができない。「音楽は生活や心を明るく豊かにすることに役立つ」という、音楽を肯定的に捉えている調査結果からすると、小中の音楽科教育の中で培われる資質と能力が、いかにその後の人生で豊かな生活を送る上で大切かがわかる。

「主体的・対話的で深い学び」がキーワードとして先行している。ここに重きを置くのではなく、この言葉はあくまでも授業改善の視点であり、一番大事なのは、資質・能力を育成することである。学習活動によって「資質・能力」は育成され、「資質・能力」が育成されるような授業では、児童生徒の「見方・考え方」は働いていないと捉えられるであろう。

音楽は、何のためにやるのか、どういう力をつけたいののか、つける力はいったい何なのかを、教師がきちんと整理し、子どもの資質・能力を育成していくことを期待したい。

この他にも、白井先生からは、短い時間の中でたくさんのご教示をいただいた。参会された方は、今後の音楽科教育の方向性を共有できた貴重な場となった。白井先生ありがとうございました。

平成30年11月16日(金)

音楽集会・小学校部会：酒田市立松原小学校
全体会・中学校部会：酒田市民会館「希望ホール」
高等学校部会：山形県立鶴岡中央高等学校

小「歌唱部会」

①五年「歌声のいろいろなひびきを味わおう」
授業者 佐藤陽子教諭
(酒田市立新堀小学校)

②二年「ようすをおもいうかべよう」
授業者 菅原 彩子教諭
(遊佐町立藤崎小学校)

《指導・助言》

授業を観て、学級経営が問われていると感じた。一人一人が活きて、集団としてのパフォーマンスが高い。音楽学習の楽しさがあってこそ、今日の授業であったと思う。
(樋坂 聡 庄内教育事務所副所長兼指導課長)



体育館への入場から集会後の退場まで、楽しい音楽活動にあふれた濃密な15分間。「音楽って楽しいね!」という、みんなの思いが参観者にしっかりと伝わり、聴いている方まで心が温くなるすてきな音楽集会となった。

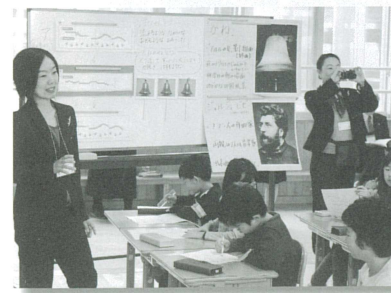
小「鑑賞部会」

⑤三年「音を合わせて楽しもう」
授業者 佐藤 麻衣教諭
(酒田市立松原小学校)

④三年「三年二組のお囃子をつくろう」
授業者 今清香教諭
(酒田市立泉小学校)

《指導・助言》

学ぶ楽しさの基盤には学級経営がある。授業の目的(児童にとって意味がある)と目標(教師にとっての狙い)をこれからも大切にしたい。語彙は、耕さないと増えない。「イメージと音楽と言葉」の三つを行ったり来たりさせることが重要である。
(大沼 清司 山形市立第一小学校教頭)



小「器楽・音楽づくり部会」

③五・六年「まとまりのある音楽をつくろう」
授業者 石垣 裕子教諭
(酒田市立黒森小学校)

④二年「音をあわせてたのしもう」
授業者 後藤 寛子教諭
(遊佐町立松山小学校)

《指導・助言》

ポイントが技。どれを使うか、だが、子どもたちはさらに越えている。楽しさを感じながらできている。先生と子どものいい関係性が見えた。学習指導要領につながる研究で、集大成ではあるが、これからの授業につながっている。
(須藤 真 尾花沢市立常磐小学校教頭)



高等学校



毎年六月に二日間の日程で行われる県高等学校教育研究会音楽専門部の研究大会であるが、今年度は東北音楽教育研究大会山形・庄内大会内において半日日程での実施となった。

午前中の

高校部会は、県立鶴岡中央高等学校を会場とし、まずは同高校松本光治教諭による高校一年生を対象とした芸術教科音楽Ⅰの公開授業が行われた。クラスを六グループに分け、後に行われる同校音楽・美術・書道三科目合同の発表会を念頭に置いた「夢」というキーワードから演奏形態や編成、選曲などをすべてグループに企画させ、練習から本番の発表会につながる授業内容であった。全十四時間扱い中、本時は最後に二時間にわたって行われる発表会の一時間目。授業内でのくじ引きにより発表グループが決定し、本時はピアノの二重連弾やキーボードとミュージックペルを使用した器楽合奏、歌唱等のグループの発表となった。

指導助言者の山形大学地域教育文化学部佐川馨教授からは、同校の音楽書三科目揃った強みを生かした柔軟な発想による題

材構成であり、人とその想いをつなぐ試みは、非常に提案性のある内容であった、との講評をいただいた。

次の研究発表では、県立谷地高校の学校設定科目「総合文化」における、地元谷地に伝わり日本四大舞楽のひとつに数えられる国的重要無形民俗文化財にも指定されている谷地八幡宮林家舞楽への取り組みを、同校原田順子教諭が行った。履修生徒を「舞」「龍笛」「箏篋」の三グループに分け、それぞれに林家の講師の方が指導を行い、秋に谷地八幡宮にて発表を行うということであったが、その実践内容は貴重な録画映像などとともに伝えられた。

高校を卒業して地元を離れた生徒たちもやがて戻り、林家舞楽の雅楽会の一員として活躍することが期待される。この取り組みは直に生涯学習につながるものであり、地元の伝統文化を後世に伝えようとする高校生姿は、大変素晴らしい頼もしく思った。

以上、非常に充実した午前中の高校部会となった。



平成31年度 山形県音楽教育連盟事業計画

5月23日(木)	第1回幹事会議
5月30日(木)	第1回理事会会議
6月12日(水)	第48回作曲コンクール課題詞募集締切
6月14日(金)	第1回東北音楽教育研究会 各県会長等理事会議
6月22日(土)	第11回山形県音楽科教育実践研修会(主催)
6月中・7月中	第1回作曲コンクール運営委員会議
8月1日(木)	第38回山形県合唱指導者講習会(中学校の部)
	第86回NHK学校音楽コンクール
8月1日(木)	小学校・高等学校の部
8月1日(木)	第43回小学校楽器指導・アンサンブル講習会
	(山形最北)
8月2日(金)	第86回NHK学校音楽コンクール 中学校の部
8月2日(金)	第43回小学校楽器指導・アンサンブル講習会
	(山形置賜)
8月18日(日)	第71回全日本合唱コンクール山形県大会
8月中	東北小学校管楽器教育研究会第1回理事会
9月30日(月)	第47回作曲コンクール作品提出締切
10月11日(木)	第37回山形県合唱指導者講習会(小学校の部)
10月上旬	第47回作曲コンクール第1次審査
11月下旬	第47回作曲コンクール第2次審査
11月6日(水)	第2回東北音楽研究大会 各県会長等理事会議
11月7日(木)	第67回東北音楽研究大会 福島大会
11月中	全日本小学校管楽器教育研究会・東北大会
12月末日	カンタービレ第15号原稿締切
12月～1月	作曲コンクール入賞者作品の録音会
1月25日(土)	東北小学校管楽器教育研究会第2回理事会 / 東北小学校バンドフェスティバル
1月中	山形新聞へ作曲コンクールの結果掲載
2月6日(木)	第2回幹事会議
2月19日(木)	第2回理事会議
3月下旬	カンタービレ第15号発行
	事務局会議・会計監査

あ と が き

本年度は東北音楽教育研究大会庄内大会が行われました。各会場での授業や記念演奏等では、日頃の熱のこもった指導の成果が、人や音が繋がり合う生き生きとした姿として伝わってきました。授業者の先生方、実行委員会の先生方、本当にありがとうございました。あの児童・生徒の生き生きとした目の輝きを目指して、今後の授業に活かしていきたいと感じたところです。

担当 佐藤佳子(山形西小) 鈴木 昭(山形九中) 布川 清史(東桜学館高)